

平成3年度

埋蔵文化財調査報告書



1992年3月

島根県江津市教育委員会

目 次

| | |
|------------|---|
| 波来浜遺跡 | 1 |
| 調査経過 | 1 |
| 遺跡周辺の地理と歴史 | 1 |
| 調査結果 | 2 |
| まとめ | 4 |
| 西厚朴古墓群 | 4 |
| 調査結果 | 4 |
| まとめ | 5 |
| 三浦窯 | 5 |
| 図版 | 6 |

例 言

1. 本書は、江津市教育委員会が平成3年度に実施した調査報告書である。
2. 調査は、次のような体制で実施した。

調査指導者 原 龍雄（江津市文化財研究会長） 江津市文化財審議会（会長・三上 嶽）
島根県教育庁文化課文化財管理指導係

事務局 山藤通之（教育長） 植田教治（社会教育課長） 三浦哲男（同課補佐）
 笹木睦子（社会教育係主事） 宮本徳昭（同主事補）

調査担当者 宮本徳昭（社会教育係主事補）

調査作業員 石田 章 石田吾一 石田康江 岩田哲春 加戸利夫 郷原ユキエ
 竹下伊作 早川好秋 林 清人 林 良枝 三浦政雄 山本忠幸
 山本登美子 ㈲浅野建設

調査協力者 渡辺郁子 永井建設㈱

3. 本書の執筆・編集・図面の作成並びに淨書と写真撮影は、宮本が担当した。
4. 方位は、調査時の磁北を示す。
5. これに係るものは、市教育委員会社会教育課で保管している。

波来浜遺跡

調査経過 平成2年度末、波来浜遺跡周辺の道路整備が計画されていることがわかった。江津市教育委員会は、この遺跡の重要性から範囲を確認しておく必要があると判断し、平成3年9月江津市議会定例会の補正予算議決を経て、同年9月24日から同年10月21日まで現地調査を実施した。

指導会を同年10月26日に開催しさらに、島根県教育庁文化課の指導を同年11月8日受けた。なお、同年11月18日・19日に埋戻しにより遺跡を保護した。

遺跡周辺の地理と歴史 江津市は、島根県の中央部やや西寄り「中国太郎」の異名をもつ江の川が、日本海に注ぐところに位置している。海岸線は、ほとんど砂浜となっている。山波は大きく2本あり、海岸線に平行している。水系は大きく3つに分かれ、山波の間を網目状に流れている。これにより小規模な耕作地が形成されている。



第1図 周辺の遺跡

本遺跡は、市内東部海岸線から約800m離れた砂丘地帯と水田地帯との境界波来浜川右岸に位置している。周辺で確認されている遺跡は、弥生時代・古墳時代・中世の城跡等・

近世代以降の鉢と窯業に関するものである（第1図）。中でも本遺跡は、弥生時代末から古墳時代初期を中心とした墳墓群と中世に至る遺構が砂丘に立地している。また、江津市周辺では唯一の佐古ケ岡横穴群があり、都治・波積地区には住居址推定地が数箇所ある。

調査結果 1グリッドと5本のトレンチ調査を実施した（第2図）。

東グリッド 砂丘部は約0.3m下げ、道路側法面は約0.5～0.8m奥までを調査した。現砂丘部では、北斜面部に墓塚 $1.7 \times 0.4 \times 0.4\text{ m}$ （約15?）1基、南斜面端に径約1・高さ0.1mのマウンド上に挙大の石3箇を立てた炉1基と共に伴土器1個体を検出した。現砂丘南裾部では、炭化物を含む石器と推定されるもの1点と共に伴土器片数片を検出した。道路法面では、炉の北で集石1所・小砂利混り層2層・土師質土器片10数片を検出した。道路法面下では、現道路面下約1mで集石の一部を検出した。その他、表砂から須恵質土器片数点と銭貨「皇宋通宝」1枚を検出した。遺構は全て検出時のままに埋戻し、遺物は全て取上げた。また、道路法面小砂利混り層レベルで鉄鏃1本を検出した。

第1トレンチ 深さ2.1～3.1mまで掘下げたが、南半分は採砂による搅乱を確認した。砂層で4層確認できたが、各層から土師質土器を数点検出した。南端部から深さ3.1mで覆流水を確認した。

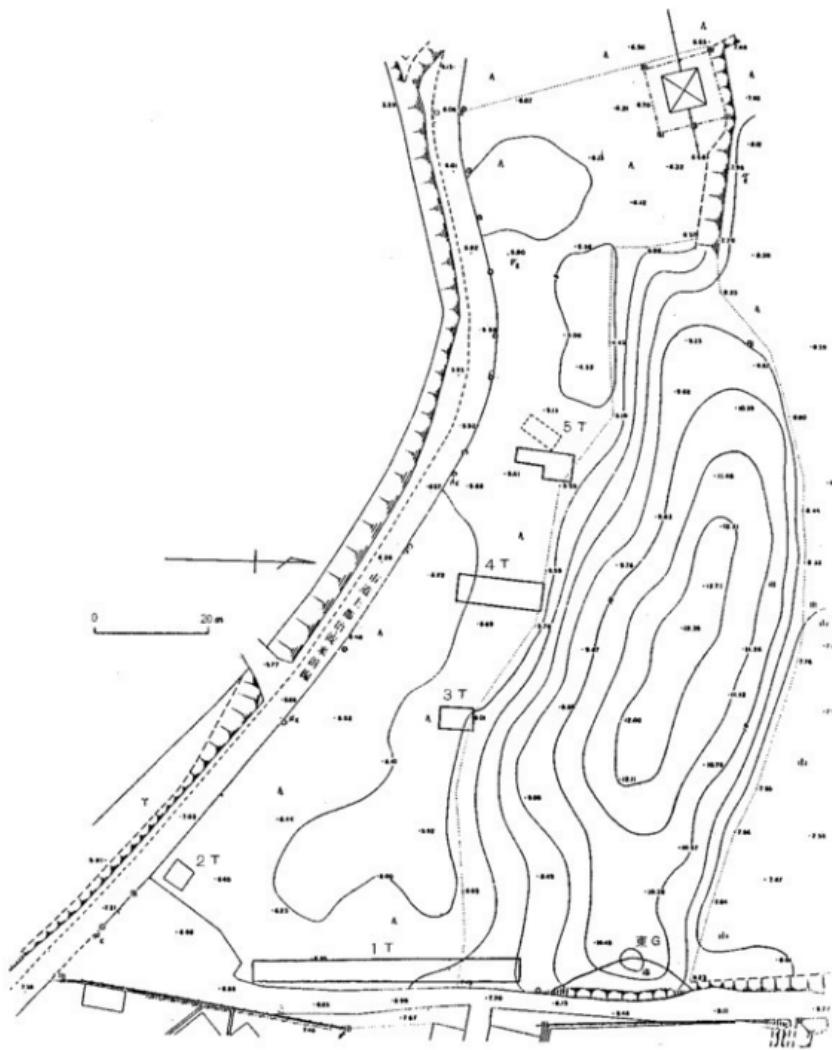
第2トレンチ 深さ3mまで掘下げたが、遺物は検出されず深さ2.7mまでの採砂による搅乱を確認した。

第3トレンチ 深さ2.8mまで掘下げたが、深さ2.8m以上の採砂による埴乱を確認した。埴乱際の砂丘側黒色砂層（深さ1.9m）から須恵器片を検出した。深さ2.6mで覆流水を確認した。

第4トレンチ 深さ0.5～1.9mまで掘下げた。砂丘側で既調査分のA区3号墓の一部を確認した。A区3号墓南側には黒色砂層が厚く堆積しており、表面から多量の土師器と須恵器の破片が検出され、鉄釘2本・青磁片3・白磁片1・砥石片1・石器片1も検出した。昭和47年調査区南側は、南へ急傾斜しており前調査区端から約7mの地点の深さ1.9mで覆流水となった。今回の調査区南側は、深さ1.0～1.3mまで搅乱されている。

第5トレンチ 深さ2mまで掘下げ、深さ0.8mまで採砂による搅乱を確認した。砂層は、急傾斜しており現砂丘南斜面の延長である。淡黒色砂層から土師器片・須恵器片を少量検出した。深さ2mで覆流水を確認した。

第4トレンチ北の現砂丘頂上部から、青磁蓮弁碗片1点等を表採した。



第2図 波来浜遺跡地形図並びに調査位置図

まとめ 今回の調査は、範囲等を確認することを目的としたものである。この結果、現在残っていると推定できる範囲は、北は現砂丘裾・東は現道路東端から少し東・南は最大限現砂丘裾から20m・西は不明であるが中国電力㈱の鉄塔付近と推定される。

本調査で新たに判明したものがある。遺跡では、中世土器を伴う炉状遺構1基がある。遺物では、青磁片・白磁片・陶器片・石器片・鐵鎌・鐵釘がある。いずれも現在整理中であり詳細は不明であるが、墨書のある中世土器・14世紀前半の青磁連弁碗等は、特に注目されるものである。弥生時代末から古墳時代・中世の複合遺跡であることを再確認し、さらに東側部分にも遺構・遺物包含層が存在していることを確認した。

今後の保護・活用の中で充分留意しておく課題は、砂丘遺跡独特の表面保護と遺構の保護及び表現方法が考えられる。

参考 『波来浜遺跡発掘調査報告書』 島根県江津市 昭和48年3月

西 厚 朴 古 墓 群

調査結果 基地改築移転に伴い立会調査を実施した。以下、東側から番号をつけ述べる。

- 墓石 1 正面「釈妙蓮」・左側面「天保九戌」四月廿二日・右側面「傳平妻」ウワコ
2 正面「釈宗沢」・左側面「文政九戌」十一月三日・右側面「傳兵エ父」弥吉コ
3 正面「釈照定」・左側面「文化四卯」九月廿八日・右側面「中ノマ」衆松子
4 正面「釈善信」・左側面「天保八酉」八月十四日・右側面「傳兵エコ」亀太父
1・2・4の正面下端には、蓮花を陰刻していた。4基の西側には、自然石の人頭大とやや小さい石が各1基あった。

墓塙 1 底と1角を確認した。平面は方形、深さ1.6m前後、壁はほぼ垂直、底は平面の整ったものであろう。長管骨・大腿骨?を検出した。

墓塙 2 $0.75 \times (0.9) m$ ・深さ1.75m。壁は傾斜があり、底は凹状を呈していた。墓拡3と重複している。人骨の一部を検出した。

墓塙 3 $0.96 \times 1.28 m$ ・深さ2.00m。壁は底に近い部分は傾斜していたが、上部はほぼ垂直だった。底は、凹状を呈していた。墓拡2より新しい。鐵釘・右側頭骨・下肢骨等を検出した。下肢骨の状態は、膝を腹部につけほぼ西に向いていた。

墓拡4 1.3×1.2m・深さ2.2m。壁はほぼ垂直、底はやや凹状を呈していた。右側頭骨・管骨等を検出した。

墓拡5 0.60×0.96・深さ1.60m。壁はほぼ垂直、底は平面を呈していた。人骨の一部を検出した。

墓拡6 0.92×0.92m・深さ2.30m。壁と底は、墓拡4と同様だった。頭骨と大腿骨等を検出した。大腿骨の状態は、正座をしほば西に向いていた。

まとめ 墓石4と墓石状自然石2基と墓拡6基を検出したが、上下の位置関係は一致していないかった。時間的制約により充分な観察ができなかったこと、人骨の残存状態が良くなかったこと等残念であった。

少ない情報から検討するには若干の危惧があるが、方形堅棺を使用し西に向けて上半身は正立させていたと考える。下肢は、膝の腹部につけたものと考えるが、墓拡6は正座と判断できた。墓拡5は、その形状から別の葬法を考えた方が良かろう。

三 浦 窯

江津都市計画道路鰐谷線建設予定地所在の中国電気工事㈱江津営業所の移転先として江津市嘉久志町根本の三浦窯所在の丘陵斜面並びに旧水田部が選定された。これを受け事業者等と協議し、窯の復元が可能な実測等の記録保存ということになった。

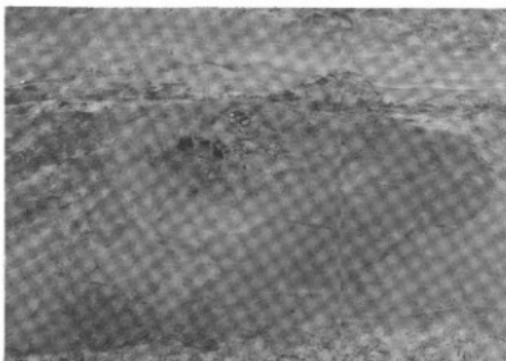
三浦窯は、丸物窯と瓦窯とからなっている。丸物窯は、昭和20年代中頃の築窯で数年操業後は崩壊のままになっていた。瓦窯は、大正末期の築窯で昭和30年代初めまで操業していた（田室敏治氏のご教示）。残存状況は、市内のなかでも良好な部類である。

寄窯・2・3番の内部構造（規模）は、天井の崩壊による埋没で確認できなかったが、全体として規模は確認できた。

参考 『石見渴』12号 江津市文化財研究会 1988年

(cm)

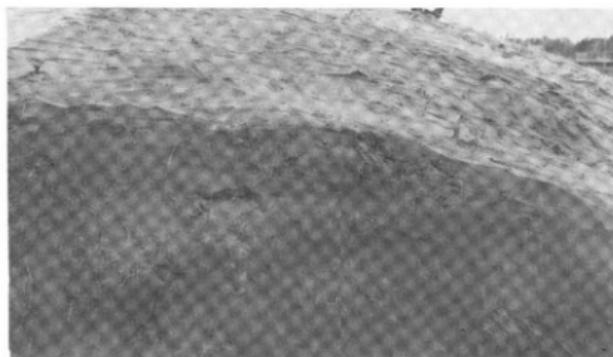
| | 奥行 | コウ高 (トップ) | 木取り (奥) | 幅 | 庭 | 1 | 2 | 3 | 4 | 直立段 | 火格子数 (鉄格子) | 勾配 高 | 小 幅 | 口 高 |
|-----|-----|-----------------|------------|----|----|----|------------|----|------------|-----|---------------|---------|--------|--------|
| 大 口 | 140 | 60 (壁) | 210 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 寄 窓 | 170 | ? | 300 | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? |
| 2 | 210 | ? | 430 | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? |
| 3 | 145 | ? | 455 | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? | ? |
| 4 | 150 | 150 (2段上) | 490 | 30 | 40 | 25 | 22 | 25 | 28 (18) | 4+1 | (16) | ? | ? | ? |
| 5 | 175 | 155 (") | 530 | " | " | 30 | 27 | 27 | 26 (23) | " | 16 | 80 | 65 | 130 |
| 6 | 170 | 140 (3段上) | 530 | 25 | " | " | 26 | 32 | 32 | " | " | 80 | 60 | 135 |
| 7 | 170 | 145 (") | 542 | " | " | 28 | 27 | 30 | " | " | 77 | " | " | 130 |
| 8 | 172 | 140 (") | 538 | " | 37 | " | 30 | " | " | 15 | 82 | 57 | 125 | — |
| 9 | 180 | 150 (2段上) | 505 | " | 40 | " | " | " | " | " | 77 | 65 | 137 | — |
| 10 | 167 | 152 (") | 508 | " | " | 25 | 27 | 25 | 26 | 4 | " | 62 | 128 | — |
| 11 | 156 | 157 (") | 511 | 17 | " | 30 | 30 | 30 | " | " | 75 | " | 141 | — |
| 12 | 164 | 132 (3段上) | 516 | 16 | 30 | " | 25 (30) | " | " | " | 70 | 52 | 121 | — |
| 13 | 114 | 116 (2段上) | 495 | " | 35 | 26 | 48 | — | — | 3 | 16 | 60 | 60 | 120 |
| 矢かせ | 60 | (90) | (310) | — | — | — | — | — | — | " | — | — | — | — |



東グリッド
炉状遺構検出状況
—西から—



東グリッド
土塙検出状況
—西から—

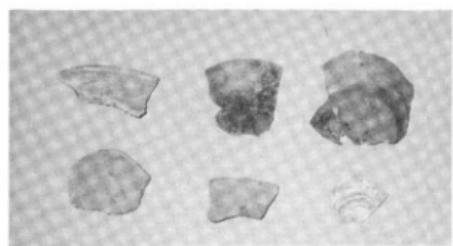


同上
セクション
—東から—

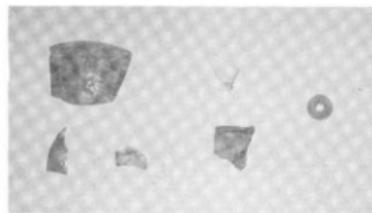
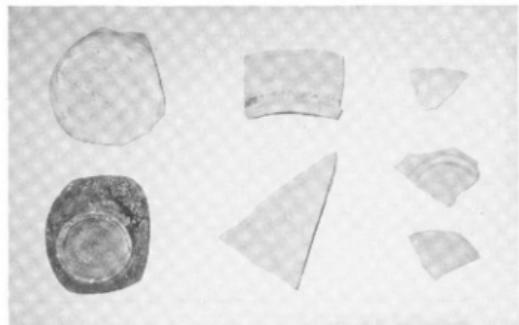
東グリッド
道路法面表砂除去後
—東から—



同 上
堆砂状況
—南から—



土師質土器
上段中央 墨書
〃右 炉状遺構出土





調査前（左から1～4号）
—北から—



調査後 1 2 3 4 5 6号 北から

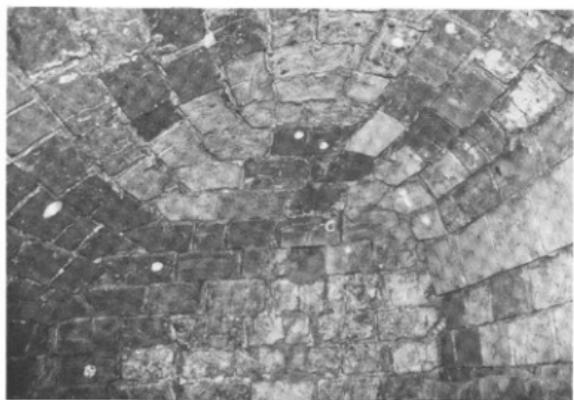
三
浦
窯



近 景
—北西から—



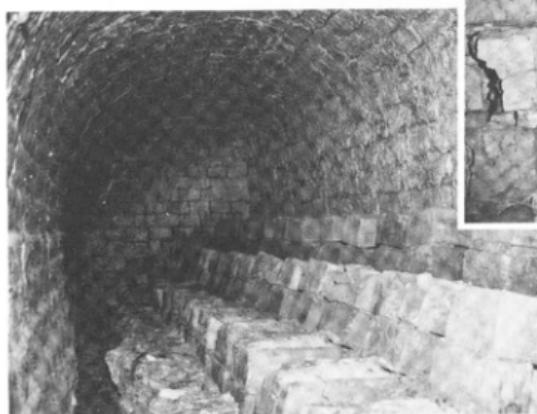
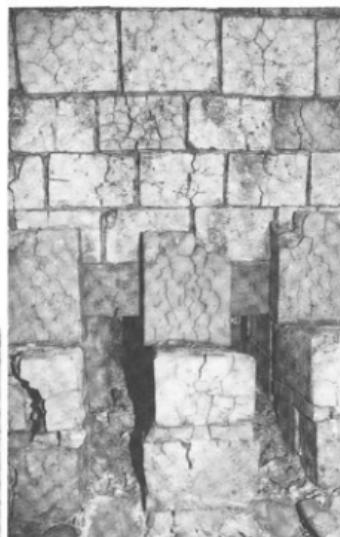
大 口



木取り奥壁

三
浦
窯

奥 壁
焚庭から



窯 内 部
小口から



窯 内 部
木取り奥から

平成3年度埋蔵文化財調査報告書

発行 1992年3月30日

江津市教育委員会

⑦695 江津市江津町1525番地

印刷 玉江印刷

⑦695 江津市江津町1110番地
